



大網ロータリークラブ Club Weekly Bulletin



■クラブ創立：2000年1月13日
■例会日：水曜日（12：30～13：30）
■例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
■事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6 ユアサビル 2 階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
■会長：石田 英世 幹事：高野 祐二
■広報・公共イメージ向上委員会
委員長 大越 将司・会報担当 石田 英世

2025年5月28日(水)

第26巻 第43号

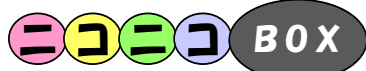
通巻第1117号

http://www.oamirotary.com
E-mail: rc@oamirotary.com



本日の例会

点 鐘 会長 石田 英世
ソング 我等の生業
会長挨拶 会長 石田 英世
幹事報告 幹事 高野 祐二
プログラム 卓話 古山 豊 先生
「米軍九十九里上陸」



無し

例会日	5月21日	5月7日
会員数	29	29
出席	15	15
欠席	14	14
M U	0	0
免除	6	7
出席率	72%	76%

会長挨拶

石田 英世 会長



みなさん、こんにちは。
今あちこちで黄色い花が鮮やかに咲いています。オオキンケイギクという花です。
北アメリカ原産の多年草で、5月～7月にかけて黄色のコスモスに似た花を咲かせます。
強靱でよく生育することから、かつては工事の際の法面緑化に使用されたり、苗が販売されたりしていました。しかし、あまりに強く、いったん定着してしまうと在来の野草の生育場所を奪い、周囲の環境を一変させてしまうため、平成18年に外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定され、生きたままの運搬や栽培、譲渡などが原則として禁止されました。5年ほど前から目立ってきた花で、大網白里市はじめ他の自治体も公式ホームページ等で「オオキンケイギクの繁殖を防ぎましょう」と駆除に取り組んでいるのですが、一向に減りません。
駆除方法は、種子ができるまえに花を刈り取り、引き抜く。引き抜いても地下茎が残っていると、また伸びてくるため、地下茎・根をできるだけ取り除く必要がある。引っこ抜いて袋に入れて、天日干しにして枯らす。枯らしてから、可燃ごみとして出します。
毎年、根ごと引っこ抜いて、毎年、花が種子をつけるまえに刈り取っていると徐々に消えていくと言われますが、一面がオオキンケイギクで覆われたら、土を全面入れ替えしないと駆逐はかなり難しく、それも一回の入れ替えで駆逐できないこともある（種子・根・地下茎が残るため）。種子や根が含まれる土を別の場所に持ち込んでも「違法」となるため、掘り出した土も、熱処分して地下茎・根・種子を枯らす必要があります。
自分の近く見かけたら、大事になる前に早めの駆除を心がけましょう。

卓話 神道研究家 木村 和彦 様



「古事記」に学ぶ伝統的な日本のところ
本日は、これまでの『古事記』の要点を簡単にまとめ、須佐之男命のお話をします。
『古事記』とは
六世紀末、中国大陸や朝鮮半島は戦乱が続いていました。日本にも大軍がくるかもしれないという危機感の中、日本のところを守り伝えるため、日本の言葉で書かれた物語が『古事記』です。先人たちがおまつりやしきたりを通して伝えてきた日本のところを、『古事記』を読んで確かめることができます。
参考：武田祐吉『古事記』青空文庫



てんちしょはつ
天地初発

あめつちはじめ たかまのはら な あめのみなかぬしのかみ
天 地 初 発 の 時、 高 天 原 に 成 り ま せ る 神 の 名 は、 天 之 御 中 主 神。 次 に
たかみむすひのかみ かみむすひのかみ みはしら ひとりがみ
高御産巢日神。次に神産巢日神。この三柱の神は、みな独 神 成りまし
て、身を隠したまひき。

日本の神様は、天地・高天原を物実として生まれ、身を隠しました。この世（顕世）は夜の部屋に、あの世（幽世）は夜の庭にたとえられます。この世からあの世は見えませんが、あの世からこの世は良く見えます。神様はこの世から身を隠し姿は見えませんが、しかし、永遠の過去から永遠の未来までこの世を見守り、私たちに力を与えています。これが日本の信仰です。

みそぎはらえ
禊 祓

伊邪那岐命と伊邪那美命は葦原中国で国作りを始めました。伊邪那美命は火の神を産んだためヤケドで亡くなります。伊邪那岐命は、伊邪那美命に会いに黄泉国に行きますが恐ろしくなって逃げ帰ります。伊邪那岐命は阿波岐原の海で禊祓をして、黄泉国での「罪穢れ」を取り除きました。罪穢れは禊祓によって取り除くことができるというのも日本の信仰です。

三貴子の誕生

伊邪那岐命の禊の最後、最も清らかな状態になったとき、最も貴い神様が生まれました。天照大御神、月読命、須佐之男命です。

天照大御神は高天原を治めました。須佐之男命は海原を治めるよう言われましたが、根の国にいる伊邪那美命に会いたいと泣いてばかりいたので、葦原中国を追放されました。

須佐之男命は、根の国に行く前に天照大御神に会いたいと思い、高天原に向かいました。天照大御神は、須佐之男命が国を取りに来たと思い、武装して待ち構えました。須佐之男命は、おだやかな女神を産み、自らのこころの清らかさを証明しました。

石屋戸開け

須佐之男命は、こころの清らかさが証明されたと調子にのり、水田を破壊し、稲作の妨害をし、機織りの建物を破壊し、技術者を殺害しました。天照大御神は石屋戸に隠れました。

高天原も葦原中国も真っ暗になり、あらゆる災いがすべて起こりました。八百万の神々は相談して、石屋戸の前で、玉串を準備し、祝詞を読み、神楽を舞い、天照大御神を誘い出しました。天照大御神が石屋戸から出てくると、高天原も葦原中国も明るく穏やかになりました。これをこの世で再現しているのが神社の祭典です。

ヤマタノオロチ退治

須佐之男命は全財産を取り上げられ、ヒゲやツメを抜かれて高天原を追放され、根の国に向かいます。須佐之男命は高天原から根の国に行く途中に出雲に立ち寄ります。斐伊川の川上で夫婦が泣いているところに出会います。夫の名は足名椎、妻の名前は手名椎と言います。

須佐之男命は「なぜ泣いているのか」と声をかけました。足名椎は「私たちの娘はもともと八人いましたが、ヤマタノオロチが毎年きて娘を食べてしまいました。今また、ヤマタノオロチが来る時になったので泣いている」と言いました。

須佐之男命は「ヤマタノオロチとはどういうすがたをしているのか」と聞きました。足名椎は「目はホオズキのように真っ赤で、体一つに頭が八つ、尾が八つあります。またその体には、コケ、ヒノキ、スギが生え、その長さは谷を八つ、峰を八つに渡し、腹を見るといつも血が流れくずれています」と言いました。

そこで、須佐之男命は「娘（櫛名田比売）を嫁にくれませんか」と言います。足名椎は「失礼ですが、どちら様ですか」と聞きました。須佐之男命は「私は天照大御神の弟です。今、天から降って来ています」と答えたところ、足名椎は「そうでしたか、失礼しました。差し上げます」と言いました。

須佐之男命は櫛名田比売を櫛に変えて髪に差し、夫婦にヤマタノオロチ大事の手立てを示しました。「何度も発酵させたとても強い酒を造ってください。



先日開催されました子ども食堂には、お忙しい中、石田会長、高野幹事、星野会員にご参加をいただきました。ご協力いただきありがとうございます。会員の皆さまにも感謝申し上げます。

垣根で囲んで八つの入り口を作ってください。入口ごとに棚を用意して、棚には大きな器を置き、その中に強い酒を入れて待っていてください」と言いました。

準備して待っていると、ヤマタノオロチが足名椎の言った通りにやってきました。そして、器に頭から突っ込んで強いお酒を飲みました。やがて、酔っぱらって寝てしまいました。須佐之男命は自分の立派な剣を抜いて、ヤマタノオロチをさんざんに斬りました。斐伊川は血の色になって流れました。

このように、須佐之男命は出雲に平和をもたらした強い神様です。今でも出雲のゆかりの神社は篤い信仰を集めています。松江市の熊野大社や出雲市の須賀神社などがあります。

須佐之男命は妻となったの櫛名田比売と共に出雲をよく治めたとされ、その子孫が栄えたようです。六代目の子孫が大国主命で、出雲大社、大神神社でまつられているほか、大黒様として広くまつられています。

草薙剣

このとき、ヤマタノオロチの尾を斬った時に、立派な剣の刃が欠けました。変だと思って剣の先で尾の中を割いてみると、鋭い大刀がありました。不思議な力があると思って、天照大御神に献上しました。これは草薙の大刀と言います。

草薙剣天照大御神は天孫降臨の際に三種の神器の一つとして、邇邇芸命に持たせました。草薙剣と呼ばれるのは、後に、倭建命が草をなぎ倒して火を防いだことから来ています。現在は熱田神宮にまつられています。

ヤマタノオロチの正体

ヤマタノオロチは、八つの頭、八つの尾、真っ赤に輝く目を持つとされています。八つの谷から連想して斐伊川の水神だと言う説があります。

個人的には、たたら製鉄の炉だと考えています。たたら製鉄では、上が開いた炉に木炭と砂鉄を次々に投入し、沢山の管から空気を送り溶かします。最後に炉の下に穴を開け、鉄の塊「けら」を流し出します。「けら」を割り砕き鉄を取りますが、その中で特に高純度の鋼を玉鋼と言います。玉鋼は日本刀に使われる鋼です。

炉に多くの管が取り付けられている様子、炉の中が真っ赤に輝いている様子、取り出された玉鋼が非常に強いことなど、ヤマタノオロチによく似ていると思います。

まとめ

神社のおまつりは『古事記』に書いてあることが起源となっています。神様が永遠に存在すること、神様は姿を隠しているけれども見守って力を与えていること、罪穢れというよくないことは祓えるということ、これらが信仰の中心にあります。

須佐之男命が現在でも篤く信仰されているのは、高天原での罪穢れを祓い、ヤマタノオロチを倒して出雲を平和にしたからです。須佐之男命の罪穢れが祓われていたから、天照大御神は献上された剣を受取りました。須佐之男命の覚悟が込められた剣を、邇邇芸命に授けたのです。

天皇も神社も人々も、家々が、地域が、国が、世界が平和で発展することを祈り続けてきました。その祈りは現在も変わりません、将来も変わらずに在って欲しいと思います。

天之菩卑命の系譜

須佐之男命が高天原に来た時、天照大御神は男の神様を何人も産みました。そのうちの一人、天忍穗耳命が皇室につながる神様です。

天之菩卑命は、出雲大社に仕える千家家などにつながる神様です。なお、天之菩卑命の子、建比良鳥命は、出雲国造・无耶志国造（武蔵の国：埼玉県の一部、東京都特別区と多摩地域、神奈川県川崎市・横浜市の大部分・相模原市の一部）・上菟上国造（養老川流域）・下菟上国造（利根川右岸、神崎町から下総町）・伊自牟国造（長生郡市）・津嶋縣直（長崎県対馬）・遠江国造（静岡県西部および中部の一部）等の祖先とされています。

